

沖田円のお散歩手帳

行先
アンフォーレ

安城市出身・在住の人気作家、沖田円さんによるコラムがいよいよスタート。沖田さんが安城のさまざまなスポットを巡り、その印象を沖田さん独自の目線で書き留めていきます。

記念すべき第一回のお散歩先は、

「アンフォーレ」。

今年の安城七夕まつりのポスターやうちわには、沖田作品の表紙絵が使われました。目にした方も多いのでは。



おき た えん
沖田円さん

超人気小説『僕は何度でも、きみに初めての恋をする。』をはじめ、『一瞬の永遠を、きみと』『春となりを待つきみへ』（スターツ出版）等、ヒットが続く。『神様の願いごと』（スターツ出版・610円（税別））は、現在9万部を突破。

皆様はじめまして。作家をしております、安城市出身、沖田円と申します。

さて今回より始めました当コラムですが、私が安城の様々な場所に赴き好き勝手語るといった内容になっておりまして、初回のテーマには作家という職業上見過ごせないあの場所を選ばせてもらいました。

アンフォーレ、という愛称が、すでに馴染んでいるかと思います。更生病院跡地に建てられた複合施設で、すでに市の新たなシンボルとなっていますね。もう行かれた方も多いでしょうが、もちろん私も勇んで遊びに行っていました。

様々な施設の入るアンフォーレですが、気になるのはやはり図書情報館。中央図書館にもよく通っていたのですが、そのイメージのままで行ってしまったら腰を抜かしそうになりました。

綺麗！開放的！ハイテク！快適！めっちゃ居心地いい！

はい、このように作家としては致命的なほど語彙が乏しくなってしまうくらい驚きの内容だったわけですが、何より長居したくなるゆとりある空間がとても素敵。座席数が多く読書や勉強に集中でき、かつお子様と親御さんが一緒にゆったりできるスペースもあり。誰でも気兼ねなく自分の時間を有意義に過ごすことができるのは大変嬉しいですね。つい一日中居座ってしまいたくなります。

個人的にはもうひとつ、児童書や「らBooks」と名付けられたティーンズ向けの書籍が豊富なのところもお気に入りです。こういった本は年齢に関係なく、読書好きはもちろんのこと、これまで読書に触れたことのない人にも手に取りやすい本です

からね。

以前から「読書は良いよ。本を読みなさい」といった声をよく聞きます。でも（こんなことを言うアンフォーレ関係者の方々に怒られてしまうかもしれませんが）私はさほど読書が大事だとは思っていません。読書によって得るものは星の数ほどあり、ときにそれは自分にとって生涯の宝物にもなりますが、それらは本を読まなければ読まないでまた別の経験から得ていくものでもあるのでしょうから。ただ、「何か」を得るためのいくつもの手段の中で、本を読むことを選んでくれた人たちが、他の誰かに強要されることも選択肢を狭められることもなく自由に本を選ぶことができる環境は必要です。誰かの決めた「良い本」「悪い本」ではなく自分の「読みたい本」を読む。読書の楽しさを知ることのできる場所が常に身近にあれば、それはとても素晴らしいことだと思うのです。

そんな場所を、アンフォーレがつくり続けてくれることを期待しながら、私も新たな物語を探しにふたたび商店街の図書館へ向かうとしましょう。本を借りたら、さて次はどこに行こうかな。



（沖田さん撮影）